

CHISE 文字オントロジーのための漢字字体・字形粒度の情報記述に関するガイドライン Ver.0.9.1

守岡 知彦 (CHISE Project)

2016年3月11日

1 はじめに

現在策定中の CHISE 文字オントロジーのための漢字字体・字形粒度の情報記述に関するガイドライン (CHISE Guidelines for Glyph Granularity of Chinese characters; CHISE-GGG) Ver.0.9.1 について述べる。

2 粒度の種類

漢字の包摂粒度を考える場合、常用漢字表で用いられている『字種』-『字体』-『字形』という概念と、UCS 等の符号化文字集合で用いられている『抽象文字』-『グリフ』-『グリフイメージ』という概念等があるが、これらをざっくりとまとめると、大まかに言って、『字種』-『抽象文字』-『字体』≒『グリフ』-『字形』≒『グリフイメージ』という4階層の包摂粒度に整理することができる。

しかしながら、個々の事例を考えた場合、必ずしもこのように綺麗に整理できない場合も少なくない。即ち、ある文字の字形の集合を視覚的形狀に基づいて分類した時、その弁別上のポイントは必ずしもこの4階層にぴったり重なるとは言えず、字形デザイン差に相当する包摂レベルに複数の階層が生じたり、どこまでを字体レベルの差異と看做すか判断に迷うような結果になったりする。

とはいえ、だからといって、包摂粒度の階層を無数に増やすと記述の複雑さを不必要に増やしかねない上、モデルが複雑すぎれば利用者の直観に合わないケースが多発しかねず、個々のオブジェクトの参照可能性を損なう恐れがあるといえる。

よって、参照のために用意する基本となる包摂粒度（基本粒度）と、その上下の中間階層を表現するための補助的な包摂粒度（補助的粒度）に分けて記述することにした。

2.1 基本粒度

2.1.1 抽象文字粒度

UCS 等の抽象文字に相当する包摂粒度として『抽象文字粒度』を設ける。

CHISE の S 式では、*name* の抽象文字を示す ID 素性を

=>*name*

で表現する。EgT[3] (CHISE-Wiki [2]) での URL 中では、

a.*name*

で表現する。

また、抽象文字粒度の文字を示す場合、〈字〉のように表現する。

この包摂粒度の記述は必須とする。但し、ID 素性の継承関係から推論可能な場合には省略を許す。

2.1.2 抽象字体粒度

字形デザイン差を捨象した字体に相当する包摂粒度として『抽象字体粒度』を設ける。

CHISE の S 式では、*name* の抽象字体を示す ID 素性を

=*name*

で表現する。EgT (CHISE-Wiki) での URL 中では、

rep.*name*

で表現する。

また、抽象字体粒度の文字を示す場合、「字」のように表現する。

この包摂粒度の記述は必須とする。

2.1.3 抽象字形粒度

Adobe-Japan1, 汎用電子、文字基盤の IVS で指示されるような抽象的な字形に相当する包摂粒度として『抽象字形粒度』を設ける。

CHISE の S 式では、*name* の抽象字形を示す ID 素性を

==*name*

で表現する。EgT (CHISE-Wiki) での URL 中では、

g2.*name*

で表現する。

また、抽象字体粒度の文字を示す場合、《字》のように表現する。

この包摂粒度の記述は必須とする。但し、ID 素性の継承関係から推論可能な場合には省略を許す。

2.1.4 例示字形粒度

字形を示す包摂粒度として『例示字形粒度』を設ける。
CHISE の S 式では、*name* の例示字形を示す ID 素性を

`===name`

で表現する。EgT (CHISE-Wiki) での URL 中では、

`repi.name`

で表現する。

また、例示字形粒度の文字を示す場合、『字』のように表現する。
この包摂粒度の記述はオプションである。

2.2 補助的粒度

2.2.1 統合字体粒度

抽象文字粒度と抽象字体粒度の間の包摂粒度として『統合字体粒度』を設ける。これは「++」と「++」のような一画の差異や「ハ」と「㇇」のような方向の差異といった微小な差異を統合したオブジェクトを表現するためのものである。

CHISE の S 式では、*name* の統合字体を示す ID 素性を

`=+>name`

で表現する。EgT (CHISE-Wiki) での URL 中では、

`o.name`

で表現する。

また、統合字体粒度の文字を示す場合、〈+字+〉のように表現する。

2.2.2 詳細字体粒度

抽象字体粒度と抽象字形粒度の間の包摂粒度として『詳細字体粒度』を設ける。

CHISE の S 式では、*name* の詳細字体を示す ID 素性を

`=>>name`

で表現する。EgT (CHISE-Wiki) での URL 中では、

`g.name`

で表現する。

また、詳細字体粒度の文字を示す場合、《+字+》のように表現する。

3 粒度分類に関するガイドライン

3.1 常用漢字表における明朝体のデザイン差

常用漢字表（平成 22 年 11 月 30 日 内閣告示第 2 号）（付）「字体についての解説」第 1 「明朝体のデザインについて」 1～3 で挙げられた明朝体のデザイン差は、原則として、抽象字形粒度以下の差異とし、抽象字体粒度以上においては統合するものとする。

同 4 「特定の字種に適用されるデザイン差について」で挙げられたものの内、(1) 「牙」、(2) 「中」の差異は、任意の字種に対しても、原則として、抽象字形粒度以下の差異とし、抽象字体粒度以上においては統合するものとする。

3.1.1 1 へんとつくり等の組合せ方

(1) 大小、高低などに関する例 組み合わせる部品の相対的な大小・高低等は、原則として、例示字形粒度の差異とする。

(2) はなれているか、接触しているか 隣接する部品間の接触の有無は例示字形粒度の差異とする。

但し、隣接する部品と接触した結果、漢字構造情報に曖昧性を生じさせるような場合、例示字形粒度の差異とせず、抽象字形粒度の差異とする。

3.1.2 2 点画の組合せ方について

(1) 長短に関して 単一部品内の線の微妙な長短は例示字形粒度の差異とする（例：《雪》、《満》、《無》）。

しかしながら、隣接する部品と接触した結果、漢字構造情報に曖昧性を生じさせるような場合、例示字形粒度の差異とせず、抽象字形粒度の差異と看做す（例：「齋」）。

(2) つけるか、はなすか 隣接する部品間の接触の有無は例示字形粒度の差異とする。

但し、隣接する部品と接触した結果、漢字構造情報に曖昧性を生じさせるような場合、例示字形粒度の差異とせず、抽象字形粒度の差異とする。

(3) 接触の位置 筆押えの有無やデザインに関わるものと「大」や「天」等の交点の位置の差異は例示字形粒度の差異とするが、それ以外は原則として抽象字形粒度の差異と看做す。

(4) 交わるか、交わらないか 交差の有無は、原則として、抽象字形粒度の差異とする。

(5) その他 「牙」のデザイン差は、原則として、抽象字形粒度の差異とする（詳細は別途定める）。

「夢」の例に関しては、隣接する部品間の接触の有無の場合を援用する。

3.1.3 3点画の性質について

(1) 点か、棒（画）か 原則として、抽象字形粒度の差異とする。但し、「勻」と「匀」の差異や「戍」と「戌」の差異は抽象字体粒度の差異とする。

(2) 傾斜, 方向 トポロジーを変えない部品の変形は、原則として、抽象字形粒度の差異とする。

(3) 曲げ方, 折り方 筆押えの有無やデザインに関わるものは例示字形粒度の差異とするが、それ以外は原則として抽象字形粒度の差異と看做す。

[Note] トポロジーを変えない部品の変形は、原則として、抽象字形粒度の差異とする。

(4) 「筆押さえ」等の有無 筆押えの長短は例示字形粒度の差異とするが、それ以外は、原則として、抽象字形粒度の差異とする。

(5) とめるか、はらうか 原則として、抽象字形粒度の差異とする。

(6) とめるか、ぬくか 原則として、抽象字形粒度の差異とする。

(7) はねるか、とめるか 原則として、抽象字形粒度の差異とする。

(8) その他 原則として、抽象字形粒度の差異とする。

3.1.4 4 特定の字種に適用されるデザイン差

(1) 牙 「牙」以外においても、原則として、抽象字形粒度の差異とする（詳細は別途定める）。

(2) 𠂇 「𠂇」以外においても、原則として、抽象字形粒度の差異とする（詳細は別途定める）。

(3) 𠂇 「𠂇」と「𠂇」の差異は、「𠂇」と「𠂇/𠂇」の場合を含め、原則として、抽象字体粒度の差異とする（詳細は別途定める）。

《𠂇》と《𠂇》の差異は、《𠂇》と《𠂇》の場合を含め、原則として、抽象字形粒度の差異とする（詳細は別途定める）。

(4) 「𠂇」と「𠂇」 〈𠂇〉を含め、原則として、抽象字形粒度の差異とする（詳細は別途定める）。

但し、別字とされる場合は、抽象字体粒度以上の差異とする。

(5) 「𠂇」と「𠂇」 原則として、抽象字形粒度の差異とする（詳細は別途定める）。

但し、別字とされる場合は、抽象字体粒度以上の差異とする。

3.2 常用漢字表における明朝体と筆写の楷書との差異

常用漢字表 (付) 第2 「明朝体と筆写の楷書との関係について」 1 「明朝体に特徴的な表現の仕方があるもの」で挙げられた明朝体と筆写の楷書との差異は、原則として、抽象字形粒度以下の差異とし、抽象字体粒度以上においては統合するものとする。但し、1 (5) の「讠」「讠」「讠」の差異は抽象字体粒度の差異とする。

同2 「筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの」で挙げられた筆写の楷書のバリエーションも、原則として、抽象字形粒度以下の差異とし、抽象字体粒度以上においては統合するものとする。但し、2 (6) は抽象字体粒度の差異とし、「叱」と「叱」は、当面、別字とする。

同3 「筆写の楷書字形と印刷文字字形の違いが、字体の違いに及ぶもの」で挙げられた筆写の楷書字形と明朝体との差異が字体の差異となるものは、抽象字体粒度以上の差異とする。

3.3 例示字形の『無標』

複数の例示字形集合中の対応する文字の字形を比較した時に、それぞれの例示字形集合において無標となる部品字形間のデザイン上の差異は例示字形粒度の差異とする。

例：《亠》の JIS X0208/0213 の例示字形『亠』と GB 例示字形『亠』の差異

3.4 隣接する部品間の接触の有無

隣接する部品間の接触の有無は例示字形粒度の差異とする。

3.5 漢字構造情報に曖昧性を生じさせるような差異

漢字構造情報に曖昧性を生じさせるような差異は、例示字形粒度の差異とせず、抽象字形粒度以上の差異とする。

3.6 垂直線形状の微妙の傾きの差異

垂直線形状の微妙の傾きの差異は例示字形粒度の差異とする。

例：《丰》の縦棒の微妙の傾き

3.7 特定のソースに関する原則

3.7.1 互換漢字

互換漢字に対する =ucs 素性は、原則として、抽象字形粒度のオブジェクトに付けることとする。但し、互換漢字の ISO/IEC 10646 の例示字形（以下、「互換漢字の例示字形」とする）が複数あって、例示字形間の差異が抽象字形粒度以上の包摂粒度の差異になっている時、各例示字形を包含する最も近い粒度の抽象字体粒度以上のオブジェクトに =ucs

素性を付けることにする。また、互換漢字の例示字形が複数あってもそれらが同じ抽象字形粒度のオブジェクトで包摂可能な場合、その抽象字形粒度のオブジェクトに=ucs 素性を付けることとする。

互換漢字の例示字形が1つの場合でも、互換漢字のソースになったと考えられる文字の抽象字形粒度のオブジェクトで対応する互換漢字の例示字形が包摂できない場合、この両者を包含する最も近い粒度の抽象字体粒度以上のオブジェクトに=ucs 素性を付けることにする。

互換漢字に対するマッピングを持つ抽象字形粒度のオブジェクトにはその出典に応じて==ucs@unicode, ==ucs@iso, ==ucs@ks, ==ucs@jis, ==ucs@cns 等をつける。

3.7.2 GT と JIS X0208:1990 の差異

GT と JIS X0208:1990 の差異は、原則として、例示字形粒度の差異とする。

3.8 その他

3.8.1 「女」のデザイン差

例示字形粒度の差異とする。

3.8.2 「九」のデザイン差

部品「九」と部品「九」の字形差は例示字形粒度の差異とする。

但し、別字と認められる場合は、当面、抽象字体粒度の差異とする。

[例] 「九」(M-07538)と「九」(M-07539)




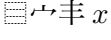
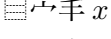
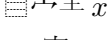
4 部品パターン毎の分類

UCS の統合漢字の符号化作業で用いられている IRG Working Document Series (IWDS) [1] 1: List of UCV (Unifiable Component Variations) of Ideographs および JIS X 0213 の包摂規準と CHISE-GGG における包摂粒度の対照表を作成した。包摂粒度の表記は 2 節で述べた文字表記に基づく。但し、抽象字体粒度の文字の「」は省略している。

4.1 点画の性質による差異

4.1.1 入りの左右

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
1	1	〈壬〉	壬 王		
		〈壬〉	壬		
		〈王〉	王		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
2	—	〈舌〉	舌 舌		
3	2	〈耒〉	耒 耒		
4	3	〈宀(x)〉  〈宀〉 〈丰〉 x  〈宀〉 〈丰〉 x  〈宀〉 〈主〉 x	 丰 x  丰 x  主 x 宀		
5	4	〈𠂔〉	𠂔 𠂔 𠂔	《𠂔》 《𠂔》	
6	195	〈丰〉	丰 丰		
7	5	〈戸〉 〈戸〉 (〈戸〉)	戸 戸 (戸)	《戸》 《戸》	
8	6	〈天〉 〈夭〉	天 夭	《天》 《天》	
9	7	〈兼〉	兼 兼 兼		
9+	7+				
11	8	〈教〉 〈教〉	教 教		
13	9	〈印〉 〈印〉	印 印		
15	10	〈歲〉 〈歲〉	歲 歲	《歲》 《歲》	
16	—	〈叁〉 〈参〉	叁 参		
17	—	〈参〉 〈叁〉	参 叁	《叁》 (《叁》)	『叁』 『叁』
18	—	〈屯〉	屯 屯		
19	—	〈反〉	反		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
			反		
20	—	〈夕〉	夕 夕		
21	—	— 〈月〉	月 月 夕	《夕》 《夕》	

4.1.2 開きが上か下か

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
22	—	〈ㄥ〉 〈八〉	ㄥ 八	《八》 《八》 《八》 《八》	
22+					
22+					
22+					
23	11	〈𠃉〉	𠃉 𠃉八一		
24	12	〈半〉	半 半	《半》 《半》 《半》 《半》	
25	13	〈平〉	平 平		
26	14	〈𠃉〉 〈𠃉〉	𠃉 𠃉 𠃉 𠃉		
27	15	〈兌〉 〈兌〉	兌 兌		
27a	—	〈𠃉〉	𠃉 𠃉		
28	16	〈小〉	小 小		
30	—	〈率〉	率 率		
32	—	〈𠃉〉	𠃉		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
			眾 眾 眾 眾 眾		
33	18	〈羽〉	羽 羽	《羽》 《羽》	
33+	18+		羽		
33+	18+				
34	19	〈翟〉	翟 翟 翟	《翟》 《翟》	
34+	19+				
35	20	〈弱〉	弱 弱		
36	21	〈ハ〉	ハ ハ		

4.1.3 はらうか止めるか

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
37	24	〈十〉 〈十〉	十 十		
38	22	〈𠂇半 x 〉	𠂇半 x 𠂇半 x	《𠂇半 x 》 《𠂇半 x 》 《𠂇半 x 》 《𠂇半 x 》	
39	23	〈𠂇卯 x 〉	𠂇卯 x	《𠂇卯 x 》 《𠂇卯 x 》	
40	—	〈非〉	非	《非》 《非》	
41	—	〈几〉 〈几〉	几 几	《几》 《几》	
42	—	〈处〉	处 处		
43	—	〈卧〉 〈卧〉	卧 卧		

4.1.4 点か線か

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
44	32	〈勺〉	勺 勺		
45	—	〈卜〉	卜 卜		
46	—	〈糸〉	糸 糸		
47	33	〈二〉 〈彳〉	二 彳	《二》 《二》 《彳》 《彳》	
48	—	〈勻〉 〈勻〉	勻 勻 勻		
49	—	〈戍〉 〈戍〉	戍 戍		
50	34	〈蔑〉	蔑 蔑		
51	35	〈盍〉 〈盍〉	盍 盍		
52	—	〈氏〉	氏 氏		
53	36	〈月〉 ? ?	月 月 月	《月》 《月》 《月》 《月》 《月》	『月』 『月』
54	37	〈凡〉	凡 凡		
55	—	〈凡〉 〈卂〉	凡 卂 卂 卂	《卂》 《卂》	

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
56	38	〈凡〉 凡 凡			
57	—	〈珙〉	珙 珙 珙		
58	160	〈夙〉	夙	《夙》 《夙》	
60	—	〈尿〉	尿 尿	《尿》 《尿》 《尿》	
61	—	〈永〉	永 永		
62	—	〈宀〉 ?	宀 (宀) 二	《宀》 (《宀》)	『宀』 『宀』
63	—	〈广〉	广	《广》	『广』 『广』
64	—	〈亼〉 〈亼〉			
65	—	〈龍〉	龍 龍		
66	—	〈丹〉	丹	《丹》 《丹》	

4.2 2点画の交差・延長の差異

4.2.1 抜けるか抜けないか

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
67	39	〈与〉	与 与		
68	40	〈甬〉	甬 甬	《甬》 《甬》	
69	41	〈甬〉	甬 甬		
70	42	〈告〉 〈告〉			

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
71	43	〈唐〉	唐 唐		
72	—	?	士 十		
73	44	〈周〉	周 周		
74	45	〈畀〉 〈畀〉	畀 畀		
75	47	〈冉〉	冉 冉		
76	46	〈蕞〉	蕞 蕞 蕞		
77	194, 49	〈舍〉 〈舍〉			
78	52	〈𠂔〉	𠂔 𠂔	《𠂔》	
79	53		𠂔	《𠂔》 《𠂔》	
80	54, 55	〈𠂔〉	𠂔 𠂔 𠂔		
82	57	〈𠂔〉	𠂔 𠂔		
83	58	〈𠂔〉 〈田〉			
84	60	〈𠂔〉 〈𠂔〉 〈𠂔〉			
85	—	〈𠂔〉 〈𠂔〉			
86	—	〈灑〉	灑 灑		
87	—	〈𠂔〉 〈𠂔〉			
88	—	〈𠂔〉	𠂔 𠂔		
89	61	〈𠂔〉 〈𠂔〉			
91	191	〈角〉	角		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
			角		
92	—	〈夂〉 〈攴〉	攴	《攴》 《攴》	
92a	—	〈歹〉	歹 𠂔		
93	—	〈亏〉 〈亏〉			
94	—	〈岨〉	岨 岨		
95	—	〈画〉	画 画		
96	—	〈山〉 〈屮〉	屮 (屮)	《屮》 《屮》	
97	—	〈电〉	电 电		
98	—	〈甬〉 〈甬〉 〈甬〉			
99	—	〈兀〉 〈尢〉	尢 (尢)	《尢》 (《尢》)	『尢』 『尢』
100	—	〈羊〉 〈羊〉			
101	—	〈善〉	善 善		
102	—	〈聿〉	聿 聿		
103	—	〈丑〉	丑 丑		
104	—	〈丸〉	丸 丸		
105	—	〈耳〉	耳	《耳》 《耳》 《耳》	『耳』 『耳』
106	170	〈刃〉 〈刃〉	刃 刃	《刃》 《刃》	

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
			刃		
107	—	〈匆〉	匆 匆		
108	—	〈爽〉 〈爽〉			
109		?	爾 𠄎𠄎𠄎 𠄎		

4.2.2 付くか付かないか

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
110	63	〈具〉	具 具		
111	—	〈直〉	直 直 直		
112	—	〈眞〉 〈真〉	眞 眞 眞 眞 眞 眞		
113	—	〈凵〉	凵 凵		
114	64	〈旦〉 〈旦〉			
115	—	〈查〉 〈查〉			
116	—	〈亶〉	亶 亶		
117	66	〈尢〉	尢 (尢)	《尢》 (《尢》)	『尢』 『尢』 『尢』
118	68	?	𠄎 日 日		
119	69	〈儿〉 〈几〉			

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
120	67	〈己〉 〈巳〉			
121	70	〈己〉 〈巳〉			
122	—	〈己〉 〈巳〉			
123	—	〈巳〉 〈巳〉			
124 124+	71	〈卷〉	卷 卷 卷 卷		
125	—	〈艮〉 〈反〉			
126	—	〈夊〉 〈本〉			
127	—	〈义〉 〈叉〉			
128	196	〈目〉	目 目 目		
129	—	〈么〉 〈么〉			
130	—	〈画〉	画 画		
132	—	〈谷〉 〈谷〉			
132a	—	〈由〉 〈由〉			

4.2.3 交わるか否か

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
133	72	〈产〉	产 产		
134	73	〈鬲〉!	鬲 鬲		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
			鬲		
136	—	〈甚〉 〈甚〉	甚 甚		
137	74	〈灰〉	灰 灰		
138	75	?	内	《内》	『内』 『内』
139	76	?	内	《内》	『内』 『内』
139a	—	〈具〉	具 具		
140	77	〈匕〉 〈匕〉	匕	《匕》 (《匕》)	『匕』 『匕』
141	78	〈匕〉 〈匕〉 〈匕〉	匕 匕 匕	《匕》 (《匕》)	『匕』 『匕』

4.2.4 接触位置の差異

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
142	50	〈巨〉	巨 巨		
143	51	〈亡〉	亡 亡		
144	56	〈卅〉 〈卅〉	卅 卅 卅		
145	59	〈寧〉	寧 寧		
146	79	〈入〉 〈人〉	人		
147	—	〈夾〉 〈夾〉			
148	80	〈内〉	内	《内》	

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
		〈内〉		《内》	
149	81	〈刀〉	刀 々 々		
150		?	丌 厂		
151	—	〈北〉	北 北		

4.3 2点画の結合・分離の差異

4.3.1 左右につなげるか断つか

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
152	82	〈卅〉	卅 卅 卅		
153	83	〈兹〉 〈兹〉 〈兹〉	兹 兹 兹	《兹》 《兹》	『兹』 『兹』
154	84	〈卉〉 〈卉〉	卉		
155	85	〈𠂔〉	𠂔 𠂔	《𠂔》 《𠂔》	
156	—	〈垂〉	垂 垂		
157	86	〈異〉	異 異		
158	87	〈畢〉	畢 畢		
159	88	〈𠂔〉 〈𠂔〉			
160	89	〈龜〉	龜 龜		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
			龜		
161	193	〈罍〉	罍 罍 罍 罍 罍		
162	90	〈臣〉 〈臣〉			
164	91	〈姬〉 〈姬〉	姬 姬		
165	158	〈熙〉 〈熙〉			
166	198, 199	〈灑〉	灑 灑 灑 灑		
167	—	〈灑〉	灑 灑		
168	—	〈白〉 〈白〉	白 白 白		
169	—	〈印〉	印 印		
170	92	〈叟〉	叟 叟 叟		
171	—	〈电〉	电 电 电		
172	—	〈奄〉 〈奄〉	奄 奄		
173	—	〈與〉 〈與〉	與 與		
174	—	〈巢〉	巢 巢		
175	93	〈寬〉	寬 寬		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
		〈寛〉	寛 寛		
176	94	〈冊〉 〈册〉 〈冊〉			
177	—	〈冊〉	冊 冊 冊	《冊》 《冊》	
178		〈麗〉	麗 麗		

4.3.2 つなげるか断つか、または、交わる角度

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
179	95	〈卩〉	卩 卩	《卩》 《卩》 《卩》	
180	96	〈开〉 〈开〉	开 开	《开》 《开》	
181	97	〈并〉 〈并〉	并 并	《并》 《并》	

4.3.3 つなげるか2点か

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
182	—	〈毋〉 〈冊〉 〈母〉	毋 毋		
183	98	〈每〉 〈每〉			

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
184	99	〈黒〉 〈黒〉			
185	—	〈熏〉 〈熏〉			
186	100	〈東〉 〈東〉			
187	101	〈曾〉 〈曾〉	曾 曾 曾 曾		
188	—	〈會〉 〈會〉	會 會		

4.3.4 つなげるか別画か

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
189	102	〈免〉	免 免		
190	103	〈卑〉	卑 卑		
191	104	〈𠂔〉	𠂔 𠂔	《𠂔》 《𠂔》	
193	105	〈𠂔〉	𠂔 𠂔		
194	106	〈𠂔〉 〈𠂔〉	𠂔 (𠂔)	《𠂔》 《𠂔》	
195	107	〈瓜〉	瓜 瓜		
196	108	〈𠂔〉	𠂔 (𠂔) 𠂔	《𠂔》 (《𠂔》)	『𠂔』 『𠂔』
197	109	〈市〉 〈市〉	市 市		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
199	111	〈艮〉	艮 𠂇		
200	112	〈𠂇〉	𠂇 𠂈		
201	—	〈主〉 〈𠂇〉	(主) 主	(《主》) 主	『主』 『𠂇』
202	—	〈敖〉	敖 𠂉		
202a	—	〈𠂉〉	𠂉 𠂊	《𠂉》 《𠂉》	『𠂉』 『𠂉』

4.3.5 曲げるか別画か

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
203	—	〈九〉 〈𠂊〉			
204	113	〈成〉	成 𠂋		
205	114	〈及〉	及 𠂌		
206	117	〈止〉	止 𠂍		
207	116	〈正〉	正 𠂎		
208	115	〈堦〉	堦 𠂏		
209	118	〈𠂐〉 〈𠂑〉	𠂐		
210	120	〈𠂒〉	𠂒	《𠂒》 《𠂒》 《𠂒》	
211	121	〈𠂓〉	𠂓	《𠂓》 《𠂓》	
212	122	〈𠂔〉	𠂔	《𠂔》 《𠂔》	
213	123	〈𠂕〉	𠂕	《𠂕》	

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
				《炗》	
214	—	〈兀〉 〈几〉			
215	—	〈今〉 〈𠂔〉			
216	—	〈𠂔〉	𠂔 𠂔フ耳		
217	—	〈𠂔〉	𠂔 𠂔		
218	—	〈𠂔〉	𠂔 𠂔		

4.4 はねるか止めるか

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
219	25	〈彳〉	彳 彳		
220 220+	—	〈𠂔〉 〈𠂔〉	𠂔 𠂔		
221	—	〈𠂔〉 〈兀〉			
222	—	〈几〉 〈八〉	八	《八》 《八》 《八》	
223 223+	26 26+	〈宀〉 〈宀〉	宀 宀 宀	《宀》 《宀》 《宀》	
224	189	〈台〉	台 𠂔 𠂔	《台》 《台》 《台》	
225	27	〈壘〉	壘		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
			堊	《堊》	『堊』 『堊』
226	28	〈楞〉	楞 楞	《楞》	『楞』 『楞』
227	—	〈賣〉 〈賣〉			
228	29	〈朮〉 〈朮〉	朮 朮	《朮》 《朮》 《朮》 《朮》	
229	—	〈林〉 〈朮〉			
230	30	〈麻〉	麻 麻		
231	—	〈尗〉	尗 尗	《尗》 《尗》	
232	31	〈尔〉 〈尔〉	尔 尔	《尔》 《尔》 《尔》 《尔》	

4.5 はねるか止めるか

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
233	—	〈朮〉 〈朮〉	朮 朮	《朮》 《朮》	
234	163	〈反〉	反 反	《反》 《反》 《反》	

4.6 起筆の有無

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
235	—	〈乂〉	乂	《乂》 《乂》	

4.7 屋根での変形

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
236	—	〈八〉	八	《八》 《八》 《八》	
237	—	〈入〉	入	《入》 《入》	
238	—	〈网〉 〈网〉			

4.8 点画の増減の差異

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
239	124	〈大〉 〈犬〉			
241	125	〈者〉	者 者		
242	126	〈杀〉 〈杀〉	杀 杀	《杀》 《杀》 《杀》 《杀》	
243	127	〈免〉 〈兔〉			
244	127	〈覓〉 〈覓〉			
245	128	〈讠〉	讠 讠 讠		
246	129	〈豕〉	豕	《豕》 《豕》 《豕》	

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
		〈豕〉	豕 豕	《豕》 《豕》 《豕》	
247	—	〈又〉 〈又〉			
248	—	〈丈〉 〈丈〉			
249	—	〈丸〉 〈九〉			
250	—	〈尢〉 〈尢〉	尢	《尢》 (《尢》)	『尢』 『尢』 『尢』
251		〈单〉 〈单〉			
252	— —	〈玉〉 〈王〉			
254	—	〈曳〉 〈曳〉			
255	—	〈朮〉 〈朮〉			
256	—	〈友〉 〈友〉	友 友		
258	—	〈筑〉 〈筑〉	筑 筑		
260	130	〈惠〉	惠 惠		
261	131	?	𠄎 彳 山 x 攴 𠄎 彳 山 一 x 攴		
262	132	〈微〉	微 微		
263	—	〈嵬〉 〈嵬〉	嵬 嵬		
264	133	〈隆〉	隆 隆		
265	—	〈壳〉	壳 壳		
266	—	〈豪〉	豪		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
			素		
267	—	〈寧〉	寧 寧		
268	—	〈烏〉 〈烏〉	烏 烏		
269	—	〈麿〉 〈麿〉			
270	—	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
271	—	〈鳳〉 〈鳳〉			
272	—	〈皐〉 〈皐〉	皐 皐 皐 皐	《皐》 《皐》 《皐》 《皐》	
274	—	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
275	—	〈蚩〉 〈蚩〉	蚩 (蚩)	《蚩》 《蚩》	
276	—	〈莖〉	莖 莖		
277	—	〈宐〉	宐 宐		
278	—	〈鼻〉	鼻 鼻		
279	—	〈𦉳〉 〈𦉳〉	𦉳	《𦉳》 《𦉳》	
280	—	〈底〉	底 底 底		
281	135	〈奧〉 〈奧〉			
282	—	〈粵〉 〈粵〉			
283	136	〈少〉	少	《少》	

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
		〈少〉	少	《少》 《少》 《少》	
284	137	〈崇〉 〈崇〉 〈崇〉			
285	138	〈纂〉 〈纂〉			
286	—	〈呂〉 〈呂〉			
287	—	〈卑〉 〈卑〉	卑 卑		
288	139	〈虽〉 〈虽〉			
289	—	〈育〉 〈育〉			
290	—	〈兗〉 〈兗〉			
291	—	〈衰〉 〈衰〉	衰	《衰》 《衰》	
292	—	〈員〉 〈員〉			
293	—	〈表〉 〈表〉	表 表 𠄎土𠄎		
295	—	〈缶〉 〈缶〉			
296 296+	—	〈羨〉 〈羨〉	羨 羨	《羨》 《羨》	
297		〈羨〉 〈羨〉			
298		〈盜〉 〈盜〉			
298b	—	〈癩〉	癩		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
			癩		

4.9 その他

4.9.1 分離して一画とするかどうか

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
299	141	〈黄〉 〈黄〉	黄 黄 黄 黄		
300	142	〈董〉 〈董〉 〈董〉			
301	143	〈莫〉	莫 莫		
302	—	〈鹵〉 〈鹵〉	鹵 鹵		
303	197	?	廿 卅		
304	—	〈霍〉 〈霍〉			

4.9.2 相対的な長さの差異

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
305	179	—	𠄎 <i>xy</i> 𠄎 <i>xy</i>		
306	—	〈睿〉 〈睿〉			
307	180	—	𠄎 <i>xy</i> 𠄎 <i>xy</i>		
308	182	〈尨〉	尨 龙		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
			尫		
309	183	〈取〉	取 𠂔 〈耳〉 〈又〉		
310	184	〈梟〉	梟 梟		
311	185	〈虍〉	虍	《虍》 《虍》	
312	—	〈土〉 〈土〉			

4.9.3 類型の統合

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
313	48	〈吳〉 〈吳〉 〈吳〉			
314	144	〈争〉 〈争〉	争 争		
315	—	〈為〉 〈爲〉	爲 爲		
316	145	—	口 日		
318	—	〈圖〉 〈圖〉	圖 圖 圖 圖 圖		
319	146	〈青〉 〈青〉			
320	147	〈盥〉 〈盥〉			
321	148	〈同〉	同 同 同		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
322	149	〈魚〉 〈𩺰〉			
323	150	〈曷〉	曷 曷 曷		
324	151	〈賴〉 〈賴〉	賴 賴 賴		
326	—	〈𠂔〉 〈𠂔〉			
327	—	〈𠂔〉 〈𠂔〉			
328 328+	— —	〈𠂔〉 〈𠂔〉 〈𠂔〉	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		
329		〈眾〉 〈眾〉	眾 眾 眾 眾 眾 眾 眾		
330	—	〈壽〉 〈壽〉			
331	—	〈兔〉 〈兔〉	兔 兔 兔		
332	—	〈衛〉 〈衛〉			
334	—	〈廩〉 〈廩〉			
335	—	〈頤〉 〈頤〉	頤		
336	—	〈采〉 〈采〉			
337	—	〈廉〉 〈廉〉			

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
338	—	〈𠃉〉	𠃉 𠃉		
339	—	〈骨〉	骨 骨		
340	—	〈乙〉 〈乞〉			
341	186	〈稽〉 〈稽〉			
342	188	〈舉〉 〈舉〉 〈舉〉			
344	—	〈切〉	切 切		
345	—	〈疍〉 〈充〉			
346	—	〈凡〉 〈丸〉			
348	—	〈婁〉 〈婁〉	婁 婁 婁		
349	110	〈犀〉	犀 犀 犀	《犀》 《犀》	
350	—	〈荒〉	荒 荒		
351	—	〈罔〉 〈罔〉			
352	—	〈羸〉 〈羸〉 〈羸〉			
352a	—	〈*〉	𠃉𠃉𠃉𠃉 凡 𠃉𠃉𠃉𠃉 𠃉 𠃉𠃉𠃉𠃉 𠃉		
353	—	〈门〉	门 门		
354	—	〈 <i>x</i> , 言, <i>y</i> 〉	𠃉𠃉言 <i>xy</i> 𠃉 <i>x</i> 言 <i>y</i>		

4.9.4 筆法の簡化の差異

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
355	153	〈皂〉 〈冓〉 〈良〉	皂 皂 冓 冓 良 良		
357	154		冓 冓		
358	155	〈食〉 〈倉〉			
359	156	〈象〉 〈象〉			
360	157	〈𧈧〉	𧈧 𧈧 𧈧		
361	159	〈囟〉 〈囟〉	囟 囟 囟		
362	161	〈示〉 〈示〉	示 示		
363	162	〈𠂔〉 〈𠂔〉			
364	—	〈臧〉	臧 臧		
365	164	〈庶〉 〈庶〉	庶 庶 庶 庶		
366	—	〈𧈧〉	𧈧 𧈧		
367	—	〈𧈧〉 〈𧈧〉			
368	—	〈业〉	业 业		
369	190	〈並〉	並 並		
370	166	〈虚〉 〈虚〉			

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
371	—	〈蒙〉	蒙 蒙		
372	167	〈互〉 〈𠄎〉	𠄎		
373	168	〈互〉 〈𠄎〉	𠄎		
374	192	〈𠄎〉	𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎		
375	—	〈𠄎〉	𠄎 𠄎 𠄎		
376	—	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
381	—	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
383	177	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
384	178	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
386	—	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
387	—	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
388	—	〈𠄎〉 〈𠄎〉	𠄎 𠄎		
389	—	〈𠄎〉	𠄎 𠄎		
390	—	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
391	—	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
392	—	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
393	—	〈𠄎〉 〈𠄎〉			
394	—	〈𠄎〉	𠄎		

IWDS 1	JIS 包摂	抽象文字	抽象字体	抽象字形	字形例
			函		
395	—	〈亟〉	亟 亟		
397	—	〈奴〉	奴 奴		
398	—	〈𠂔〉 〈𠂔〉			
407	—	〈龜〉	龜 龜		
408	—	〈工〉	工 互		

5 検討中のもの

5.1 同じ抽象字体への統合を検討しているもの

- 「刃」と「刃」
- 「堊」と「堊」
- 「反」と「反」
- 「丰」と「丰」
- 「羌」と「羌」
- 「莫」と「莫」

上記のものは、現在、抽象字体粒度の差異としているが、この両者を同じ抽象字体として統合し、両者の差異を抽象字形粒度に変更した方が良いかどうか？

参考文献

- [1] IRG Working Document Series. <http://appsrv.cse.cuhk.edu.hk/~irg/irgwds.html>.
- [2] 守岡知彦. CHISE のセマンティック Wiki 化の試み. 情処研報, Vol. 2010-CH-87, No. 8, pp. 1-8, 2010年7月.

- [3] 守岡知彦. Wiki 的手法に基づく構造化データの編集について. 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 —人文工学の可能性～異分野融合による「実質化」の方法～, 情報処理学会シンポジウムシリーズ, 第 2010 巻, pp. 33–40. 情報処理学会, 情報処理学会, 2010 年 12 月.